

教科	地理歴史	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	D群		
使用教科書	現代の日本史 (山川出版社)			副教材等			履修	☑履修・選択	
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路		
近現代(19世紀以降)の日本の歴史を中心に学習します。江戸時代後半から現代までを中心に扱います。細かな事象や高度な事項には深入りせずに、基本的な事項を学習します。				・近現代を中心とする日本の歴史の展開を、国際環境と関連させて考察し、歴史的思考力を培う。 ・作業的・体験的な学習をすることで、歴史への関心を高めるとともに、歴史的な見方、考え方を身に付ける。			・履修の条件は特にありません。 ・日本史A、日本史B①、地理Aから必ず1科目を選択すること。		
月	単元名	項目		学習内容					
学年間の計画	4月	第1編 開国と維新	1 明治維新の背景 1 開国とその影響 3 政治秩序の崩壊 4 明治維新と連続的改革 5 対外関係の変革と内乱の終結	・江戸時代の日本と隣国 ・江戸時代の経済・ペリー来航 ・通商と国交の開始 ・洋学の導入と貿易 ・安政五年の政変 ・公議と尊王攘夷の運動 ・徳川幕府の崩壊 ・明治政府の発露 ・身分制の廃止と国民の創出 ・経済制度の改革 ・文明開化 ・岩倉使節団 ・近隣諸国との関係 ・土族反乱の鎮圧 ・立憲政治構想 ・自由民権運動の展開 ・明治十四年の政変 ・内閣制度の確立 ・大日本帝国憲法の発布と議会の開設 ・条約改正交渉の展開と改正の実現 ・朝鮮をめぐる対立 ・日清戦争と影響 ・立憲政友会の成立 ・日露戦争とその影響					
	5月	第2章 近代国家の形成と発展	1 立憲政治をめざして 2 憲法の制定と議会の開設 3 東アジアの国際環境と条約改正問題						
	6月		4 清国との戦い 5 藩閥・政党の対立と協力 6 ロシアとの戦い 7 日露戦争後の国際関係 ・地域社会の変化						
	7月	○ 主題学習 1							
	9月	第3章 産業化の推進と国民生活の変化	1 産業革命の進展 2 資本主義の確立とその特色 3 社会問題の発生 4 国民文化の形成 5 国民生活の変化	・製糸業・紡績業の発展 ・重工業の発達と資本主義の確立 ・財閥の形成 ・農村の変容 ・労働問題と社会主義運動 ・公害問題 ・国民教育の普及と新しい文学 ・交通の発達 ・大戦の勃発と日本の参戦 ・シベリア出兵 ・護憲運動の展開 ・米騒動 ・平民宰相 ・パリ講和会議とヴェルサイユ条約 ・協調外交の展開 ・第二次護憲運動と影響 ・大戦景気 ・関東大震災 ・文化の大衆化 ・新しい思想と学問 ・金融恐慌と世界恐慌 ・苦境に立つ協調外交 ・満州事変と日本の国際連盟脱退 ・政党内閣の崩壊と国家主義的風潮の始まり ・二・二六事件 ・日中戦争 ・第二次世界大戦の勃発 ・太平洋戦争の勃発と日本の敗北					
	10月	第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー	1 第一次世界大戦と日本の外交 2 デモクラシーの高まりと政党 3 国際協調と軍縮の進展 4 政党政治の時代 5 大戦中から戦後の経済と社会 6 都市化と大衆文化						
	11月	第5章 第二次世界大戦と日本	1 昭和恐慌 2 協調外交のゆきづまり 3 満州事変から国際的孤立へ 4 軍部の政治的台頭 5 中国との戦い 6 第二次世界大戦と世界新秩序 7 太平洋戦争 8 日本の敗北						
	12月	第6章 占領下の日本	1 占領政策の日本 2 戦後民主主義の定着 3 政治・経済の再建 4 独立の回復	・アメリカによる占領と民主化の推進 ・新憲法の制定 ・新しい教育制度 ・政党政治の復活 ・冷戦の始まり ・占領政策の転換と講和への道 ・吉田政治の終わりと55年体制 ・安保改定と沖縄返還 ・日中国交正常化 ・経済の復興 ・高度経済成長と消費革命 ・国際情勢の変動 ・ヨーロッパとアジアの情勢 ・政界の変動 ・流動的な国内政治 ・経済大国の苦悩 ・新しい安全保障					
	1月	第7章 日本の自立と経済成長	1 55年体制の成立 2 安保体制化の日本 3 高度成長の光と影						
	2月	第8章 現代の世界と日本	1 激動する世界 2 国内政治の再編成 3 アジア・太平洋地域と日本 4 21世紀の課題						
	3月								
	学習方法	<p>【予習】 教科書の該当ページをよく読んで、わからない箇所をチェックしましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない箇所は、早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について整理し、特に重要語句については確実な知識を身に付けましょう。</p>							
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能		知識・理解		
	・日本の歴史の展開に対する関心と課題意識をもって、授業に積極的に参加する。 ・予習・復習をきちんと行う。		・近現代を中心とする日本の歴史を国際環境と関連づけながら考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。考察した過程や結果を適切に表現する。		・諸資料を収集して、有用な情報を選択して活用する。 ・歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに考察する。		・近現代史を中心とする日本の歴史の展開についての基本的な事柄を日本を取り巻く国際環境と関連づけながら理解し、その知識を身に付ける。		
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期 A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)課題の取組状況、長期休業中の課題等		第3学期 A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)課題の取組状況、冬季休業中の課題等		年度末 1・2・3学期の平均		
備考									

日本史B①

総合学科

教科	地理歴史	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	D群		
使用教科書	詳説日本史 (山川出版社)			副教材等	最新日本史図表新版(第一学習社)		履修	必履修・選択	
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路		
日本の原始・古代から近・現代までの歴史を詳しく学習し、センター試験や大学入試等に対応できる学力の養成を目指します。各種模試の範囲に対応するため、学習進度も速く、内容も高度です。2年次では、鎌倉時代までを扱います。				<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史の展開について、世界の動向と関連させて、総合的に考察するとともに、その知識を身に付ける。 日本の文化と伝統の特色についての認識を深めながら、歴史的思考力を培う。 文献、絵画などの諸資料を活用しながら、歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、その結果を適切に表現する。 			<ul style="list-style-type: none"> 2年次D群で2単位の履修をし、3年次P群の4単位の継続履修とします。 3年次で、R①の「日本文化史」を同時に履修することを勧めます。 4年制文系大学進学(国公立、私立)希望者を対象とします。 日本史A、日本史B①、地理Aから必ず1科目を選択すること。 		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容					
	4月	ガイダンス 第1部 原始・古代	歴史の学び方 第1章 日本文化のあけぼの	歴史と資料 1 文化の始まり					
	5月			2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権					
	6月			1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道 3 平城京への時代					
	7月		第2章 律令国家の形成						
	9月	第2部 中世	第3章 貴族政治と国風文化	4 天平文化 5 平安王朝の形成					
	10月			1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士					
	11月			1 院政と平氏の台頭					
	12月			第4章 中世社会の成立					
	1月			2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会					
	2月			4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化					
	3月								
	学習方法	<p>【予習】 教科書の該当ページをよく読んで、わからない箇所をチェックしましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない箇所は、早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について整理し、特に重要語句については『一問一答日本史B用語問題集』を活用して、確実な知識を身に付けましょう。</p>							
評 価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能		知識・理解		
	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め意欲的に追及しようとする。 予習・復習をきちんと行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史の展開から国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断するとともに、その過程や結果を適切に表現する。 		<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 		<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。 		
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に <u>考査</u> による <u>観点別評価</u> B：主に <u>授業等の活動</u> による <u>観点別評価</u>		第1・2学期		第3学期		年度末		
		A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等		A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、冬季休業中の課題等		1・2・3学期の平均			
備 考									

日本史B①

総合学科

教科	地理歴史	単位数	4単位	対象	3年次	選択群	P群
使用教科書	詳説日本史 (山川)			副教材等	最新日本史図表新版 (第一学習社)		履修 ☑履修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
日本の原始・古代から近・現代までの歴史を詳しく学習し、センター試験や大学入試等に対応できる学力の養成を目指します。各種模試の範囲に対応するため、学習進度も速く、内容も高度です。3年次では、室町時代から現代までを扱います。			<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史の展開について、世界の動向と関連させて総合的に考察するとともに、その知識を身に付ける。 日本の文化と伝統の特色についての認識を深めながら、歴史的思考力を培う。 文献、絵画などの諸資料を活用しながら、歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、その結果を適切に表現する。 			<ul style="list-style-type: none"> 2年次で日本史B①を選択した生徒は継続履修です。 R①の「日本文化史」を同時に履修することを勧めます。 4年制文系大学進学(国公立、私立)希望者を対象とします。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第Ⅱ部 中世	第5章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立 3 室町文化 ○歴史の解釈	2 幕府の衰退と庶民の台頭 4 戦国大名の登場		
	5月	第Ⅲ部 近世	第6章 幕藩体制の確立	1 織豊政権 3 幕藩体制の確立 ○歴史の説明	2 桃山文化 4 幕藩社会の構造		
	6月		第7章 幕藩体制の展開	1 幕政の安定 3 元禄文化	2 経済の発展		
	7月		第8章 幕藩体制の動揺	1 幕政の改革 3 幕府の衰退と近代への道	2 宝暦・天明期の文化 4 化政文化		
	9月	第Ⅳ部	第9章	1 開国と幕末の動乱 3 立憲国家の成立と日清戦争 5 近代産業の発展	2 明治維新と富国強兵 4 日露戦争と国際関係 6 近代文化の発達		
	10月		第10章	1 第一次世界大戦と日本 3 市民生活の変容と大衆文化 5 軍部の台頭	2 ワシントン体制 4 恐慌の時代 6 第二次世界大戦		
	11月		第11章	1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和			
	12月		第12章	1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ			
	1月		第13章	1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の動揺 ○ 歴史の論述			
	2月						
	3月						
	学習方法	【予習】 教科書の該当ページをよく読んで、わからない箇所をチェックしましょう。 【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない箇所は、早めに質問しましょう。 【復習】 その日に学習した内容について整理し、特に重要語句については『一問一答日本史B用語問題集』を活用して、確実な知識を身に付けましょう。					
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解			
	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする。 予習・復習をきちんと行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史の展開から国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断するとともに、その過程や結果を適切に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。 			
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による B：主に授業等の活動による	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末			
	A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等	A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、冬季休業中の課題等	1・2・3学期の平均				
備考							

日本史B②

総合学科

教科	地理歴史	単位数	4単位	対象	3年次	選択群	T群	
使用教科書	最新日本史 (明成社)			副教材等			履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
<ul style="list-style-type: none"> 日本の原始・古代から近・現代までの歴史を概観し、「歴史年表」の作成などの体験的な学習を行う。 江戸から現代にかけての保内町の発展について、現在残っている町内の遺構や資料を分析する。 保内歴史マップの作成を通じて、町内の文化遺産の歴史・位置・形成の理由や発展の過程を知り、郷土に誇りをもつ。 			<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史全体の流れを理解し、基本的な内容や知識を身に付ける。 日本の文化と伝統の特色についての認識を深めながら、歴史的思考力を培う。 身近な地域の歴史と文化について、主に体験的な学習を通して学ぶことにより、地域に対する関心と理解を深める。 			<ul style="list-style-type: none"> T群(3年次)の自由選択科目です。 日本史Aと比べて内容が詳細になるので、歴史に関心の強い人が選択してください。 		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	1 ガイダンス 歴史年表の作成	(1) 原始・古代	歴史と資料 ① 古代国家の形成～律令国家の発展 ② 貴族政治と国風文化の展開 ③ 武家政治の成立と文化の新気風 ④ 武家社会の展開と文化の発達 ⑤ 天下統一への動き ⑥ 封建社会の確立～幕政の進展と文化の普及 ⑦ 封建社会の動揺と文化の爛熟 ⑧ 開国と幕末の政局 ⑨ 明治維新と近代国家の形成～立憲国家の成立 ⑩ 近代日本とアジア～世界の動乱と日本 ⑪ 占領統治と日本の独立～高度経済成長と日本				
	5月		(2) 中世					
	6月		(3) 近世					
	7月		(4) 近代・現代					
	9月	2 テーマ学習	(1) 原始・古代	① 縄文時代に農耕はあったか ② 「日本」「天皇」号の由来 ③ 奈良仏教と福祉事業 ④ 『古事記』と『日本書紀』の成立 ⑤ 末法思想 ⑥ 紋章の由来 ⑦ 戦国時代の城下町				
	10月		(2) 中世	・ 参勤交代と川之石 ・ 海運拠点の雨井と西のおやげ ・ 川之石紡績から東洋紡績へ ・ 第二十九国立銀行の設立 ・ 戦時中の川之石 ・ 戦時の川之石				
	11月	1 近代保内の歴史概説	(1) 江戸期の保内	・ グループに分かれて、産業・分野別に保内の近代遺産を調査研究する。				
	12月		(2) 明治・大正期の保内	・ 保内の近代遺産のフィールドワークを行う。				
			(3) 昭和期の保内					
			(4) 近代遺産の調査研究					
			(5) 近代遺産の見学					
			(6) 保内歴史マップの作成	・ 個人もしくはグループで、保内歴史マップを作成する				
		(7) 保内歴史マップ完成	・ 発表された歴史マップをまとめて、ひとつの完成版歴史マップを作成する。					
学習方法	【予習】	教科書の該当ページをよく読んで、わからない箇所をチェックしましょう。						
	【授業】	年表作成では、教科書の巻末の歴史年表を参考に、主体的に作業学習を行いましょう。町内の遺構や遺物に関心を持ち、日頃から目を配るようにしましょう。						
	【復習】	作成した年表と、同時代の保内町の様子を比較してみましょう。						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解				
	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史の展開に対する関心と課題意識をもって、授業に積極的に参加する。 予習・復習をきちんと行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化と伝統の特色を世界の動向と関連させて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化に踏まえ公正に判断するとともに、考察した過程や結果を適切に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸資料を収集し、有用な情報を読み取ったり、図表などにまとめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史の展開について、世界の動向と関連させて総合的に理解し、政治、経済、社会、文化の各分野の基本的事項の知識を身に付ける。 				
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に <u>調査による</u> 観点別評価 B：主に <u>授業等の活動による</u> 観点別評価	第1・2学期	第3学期	年度末				
		A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、作成年表の相互評価及び指導者評価	A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、ワークシート等	1・2・3学期の平均				
備考								

地理A

総合学科

教科	地理歴史	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	D群	
使用教科書	高等学校 新地理A (帝国)			副教材等	ワークブック地理A・B (高教研)		履修 <input checked="" type="checkbox"/> 履修・選択	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
<p>現代社会の特色を、地理的な技能を活用して解決したり考えたりして、大きくとらえていきます。 地図の見方や自然環境、世界各地の人々や生活文化について学習します。</p>			<p>・現代社会の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養う。 ・地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。</p>			<p>・就職、専門学校等の一般教養の学習を希望する者を対象とします。 ・日本史A、日本史B①、地理Aから必ず1科目を選択すること。</p>		
学年間の計画	月	単元名	項目	学習内容				
	4月 5月 6月 7月	第1部 世界の諸地域の姿と地球的課題	1章 地球儀や地図からとらえる現代社会	1 地球上の位置と国家 2 グローバル化が進む世界				
			2章 人間を取り巻く環境	1 人々の生活と地形 2 人々の生活と気候 3 人々の生活と産業・文化				
			3章 世界の諸地域の生活・文化	1 中国の生活・文化 2 韓国の生活・文化 3 東南アジアの生活・文化 4 南アジアの生活・文化 5 中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化 6 サハラ以南のアフリカの生活・文化 7 ヨーロッパの生活・文化 8 ロシアの生活・文化 9 アングロアメリカの生活・文化 10 ラテンアメリカの生活・文化 11 オーストラリアの生活・文化				
	1月 2月 3月	第2部 身近な地域の課題	4章 地球的課題と私たち	1 複雑にからみ合う地球的課題 2 世界の環境問題 3 世界の資源エネルギー問題 4 世界の人口問題 5 世界の食料問題 6 世界の都市・居住問題				
			1章 身近にあるさまざまな地図					
			2章 日本の自然環境と防災 3章 身近な地域の課題と地域調査					
	学習方法	<p>【予習】 教科書の該当ページをよく読んで、わからない箇所をチェックしましょう。 【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない箇所は、早めに質問しましょう。 【復習】 その日に学習した内容について整理し、特に重要語句については『一問一答日本史B用語問題集』を活用して、確実な知識を身に付けましょう。</p>						
	評価の観点・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			
		<p>・現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究する。 ・予習、復習をきちんと行う。 ・作業学習を丁寧に行う。</p>	<p>・現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性を踏まえて多面的・多角的に考察する。国際社会の変化を踏まえてその課題を公正に判断し、適切に表現する。</p>	<p>・地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用する。 ・地理的事象を追究する技能を身に付ける。</p>	<p>・現代世界の地理的諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付ける。</p>			
		<p>評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に査査による B：主に授業等の活動による 観点別評価</p>	<p>第1・2学期 A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等</p>	<p>第3学期 A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、冬季休業中の課題等</p>	<p>年度末 1・2・3学期の平均</p>			
	備考							

地理B

総合学科

教 科	地理歴史	単位数	4 単位	対象	2 年次	選択群	K群
使用教科書	新詳地理B (帝国)			副教材等	ワークブック地理A・B (高教研)		履修 必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
地図の見方や自然環境、世界各地域との結びつきや産業について学習します。			<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 			<ul style="list-style-type: none"> 一般教養を高め、社会情勢を理解するために必要な知識、技能、判断力等を身に付けたい生徒を対象とします。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第Ⅰ部 さまざまな 地図と地理 的技能	1章 地理情報と地図	1 地図の発達 2 地図の種類とその利用	3 地理情報の地図化 1 地図の活用 2 身近な地域の調査		
	5月		2章 地図の活用と地域調査				
	6月	第Ⅱ部 現代世界の 系統地理的 考察	1章 自然環境	1 世界の地形 2 世界の気候	3 日本の自然の特徴と人々の生活 4 環境問題		
	7月		2章 資源と産業	1 世界の農林水産業 2 食糧問題			
	9月		3章 人口、村落・都市	1 世界のエネルギー・鉱山資源 4 資源・エネルギー問題 5 世界の工業 6 第3次産業 7 世界を結ぶ交通・通信 8 現代世界の貿易と経済圏			
	10月	第Ⅲ部 現代世界の 地誌的考察	4章 生活文化、民族・宗教	1 世界の人口 2 人口問題 3 村落と都市 4 都市・居住問題	1 生活文化 2 民族と宗教 3 現代世界の国家 4 民族・領土問題		
	11月		1章 現代地域の地域区分	1 地域区分とは何か 2 地域区分のさまざまなスケール			
	12月		2章 現代世界の諸地域	1 地誌の考察方法 2 東アジア 3 東南アジア 4 南アジア 5 西アジアと中央アジア 6 北アフリカとサハラ以南のアフリカ			
	1月		3章 現代世界と日本	7 ヨーロッパ			
	2月						
	3月						
	学習方法	<p>【予習】 教科書の該当するページをよく読み、重要語句や分からない語句をノートにメモしておきましょう。</p> <p>【授業】 集中して作業内容に取り組み、説明をよく聞き、学習内容をよく理解しましょう。</p> <p>【復習】 学習した内容をノートに見直ししながら整理し、重要語句は数回ノートに書き、理解を確実にしましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能		知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究する。 予習、復習をきちんと行う。 作業学習を丁寧に行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的、地誌的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、かつ適切に表現する。 		<ul style="list-style-type: none"> 地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用する。 地理的事象を追究する技能を身に付ける。 		<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期		第3学期		年度末
		A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等		A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、冬季休業中の課題等		1・2・3学期の平均	
備考							

地理B

総合学科

教 科	地理歴史	単位数	4 単位	対象	3 年次	選択群	T 群	
使用教科書	新詳地理B (帝国)			副教材等	ワークブック地理A・B (高教研)		履修 必履修・ 選択	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
地図の見方や自然環境、世界各地域との結びつきや産業について学習します。			<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 			<ul style="list-style-type: none"> 一般教養を高め、社会情勢を理解するために必要な知識、技能、判断力等を身に付けたい生徒を対象とします。 		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	第Ⅰ部 さまざまな 地図と地理 的技能	1章 地理情報と地図	1 地図の発達 2 地図の種類とその利用				
	5月		2章 地図の活用と地域調査	3 地理情報の地図化				
	6月	第Ⅱ部 現代世界の 系統地理的 考察	1章 自然環境	1 世界の地形 2 世界の気候	3 日本の自然の特徴と人々の生活 4 環境問題			
	7月		2章 資源と産業	1 世界の農林水産業 2 食糧問題	3 世界のエネルギー・鉱山資源			
	9月		3章 人口、村落・都市	4 資源・エネルギー問題 5 世界の工業	6 第3次産業 7 世界を結ぶ交通・通信			
	10月	第Ⅲ部 現代世界の 地誌的考察	4章 生活文化、民族・宗教	8 現代世界の貿易と経済圏	1 世界の人口 2 人口問題 3 村落と都市	4 都市・居住問題		
	11月		1章 現代地域の地域区分	1 生活文化 2 民族と宗教 3 現代世界の国家	4 民族・領土問題			
	12月		2章 現代世界の諸地域	1 地域区分とは何か 2 地域区分のさまざまなスケール	1 地誌の考察方法 2 東アジア 3 東南アジア			
	1月			4 南アジア 5 西アジアと中央アジア	6 北アフリカとサハラ以南のアフリカ			
	2月			7 ヨーロッパ	8 ロシア			
	3月							
	学習方法	<p>【予習】 教科書の該当するページをよく読み、重要語句や分からない語句をノートにメモしておきましょう。</p> <p>【授業】 集中して作業内容に取り組み、説明をよく聞き、学習内容をよく理解しましょう。</p> <p>【復習】 学習した内容をノートに見直ししながら整理し、重要語句は数回ノートに書き、理解を確実にしましょう。</p>						
評価 の 規 準 ・ 評 価 方 法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解				
	<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究する。 予習、復習をきちんと行う。 作業学習を丁寧に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的、地誌的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、かつ適切に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用する。 地理的事象を追究する技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 				
	<p>評価方法</p> <p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に<u>考査</u>による観点別評価</p> <p>B：主に<u>授業等の活動</u>による観点別評価</p>	第1・2学期	第3学期	年度末				
	A：7割 B：3割	A：7割 B：3割	1・2・3学期の平均					
	Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等	Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、冬季休業中の課題等						
備考								

世界文化史

総合学科

教科	地理歴史	単位数	4単位	対象	2年次	選択群	K群
使用教科書	ビジュアルガイド 世界遺産を歩こう (PHP文庫)			副教材等			履修 必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
美術・建築などの物質的な文化や宗教・書物などの精神的な文化を学習したり、調査することによって、世界の諸地域への理解や関心を深めていきます。文化を中心に扱うため、世界史Aの授業などと比較するとかかり詳しい授業になります。			<ul style="list-style-type: none"> 各時代の文化を歴史的な背景と関連付けて理解する。 文化に興味をもち、自分から知ろうとする態度を身に付ける。 			<ul style="list-style-type: none"> K群(2年次)の自由選択科目です。 進路に関する条件はありません。 歴史や文化に興味・関心がある人が選択してください。 	
学年間の計画	月	単元名	項目	学 習 内 容			
	4月	第1部 古代	第1章 原始社会	<ul style="list-style-type: none"> 人類の誕生 			
	5月		第2章 文化の誕生	<ul style="list-style-type: none"> 四大文明 古代ギリシア文化 ヘレニズム文化 古代ローマ文化 			
	6月						
	7月						
	9月	第2部 中世	第1章 中世の文化	<ul style="list-style-type: none"> 仏教 キリスト教 イスラーム 			
	10月						
	11月						
	12月	第3部	第1章 近世の文化	<ul style="list-style-type: none"> ルネサンス 			
	1月	第4部	第1章 現代の文化	2年次 <ul style="list-style-type: none"> 近世の芸術 19～20世紀の文化 			
	2月						
	3月						
学習方法	【予習】 課題が出ている場合は、まとめたものを自分の言葉で理解する。 【授業】 よく聞いて、ノートにまとめ、内容を理解する。ビデオなどはしっかりとメモをとる。 【復習】 視聴覚レポートの整理をその都度行う。						
評価の観点・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解			
	<ul style="list-style-type: none"> 世界の諸地域の文化について、興味や知る喜びをもって授業に臨める。提出期限を守る。 	<ul style="list-style-type: none"> 建築や絵画、書物などに関わる歴史的または思想的・宗教的な背景について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化に関わる資料や、文献を収集し、それをもとに、ある程度客観的な自分の意見を組み立て、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 建築や絵画、書物や思想・宗教など世界の諸地域の文化が現在の国際社会と関係があることを理解し、それを知識として身に付ける。 			
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に査考による 観点別評価 B：主に授業等の活動による 観点別評価	第1・2学期 A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、発表資料、視聴覚レポート、夏季休業中の課題等	第3学期 A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、発表資料、視聴覚レポート、冬季休業中の課題等	年度末 1・2・3学期の平均			
備考							

愛媛学

総合学科

教科	地理歴史	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	R②群
使用教科書	愛媛県の歴史散歩（高教研）			副教材等			履修 必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>学校設定科目の一つとして、地理歴史公民の学習を生かした授業を行います。具体的には、身近な愛媛県の歴史・地理・産業に焦点を当てた学習を行い、愛媛の人々の生活や盛衰の様子をつかみます。</p>			<p>・愛媛の歴史的・地理的特色をゆかむとともに、郷土を愛する気持ちを培い、愛媛のよさを理解する。 ・主体的に愛媛の発展を考え、そのために今の自分に何ができるかを考える。</p>			<p>・郷土(愛媛)の生活文化や自然・産業等に興味のある者が望ましい。</p>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	1 愛媛県の概要と特色	1 愛媛の地理と歴史	1 愛媛学とは 2 愛媛の地理 3 愛媛の主要都市(市町村合併) 4 愛媛の歴史 5 主題学習 6 愛媛の偉人 7 愛媛の伝説 8 愛媛の農業 9 果樹栽培の沿革 10 主題学習			
	5月						
	6月						
	7月	2 愛媛の偉人と柑橘栽培	2 愛媛の偉人と柑橘栽培	11 養蚕業の盛衰 12 地場産業の興り 13 金融業の発達 14 愛媛の産業の発展 15 主題学習 16 交通の発達 17 伊予八藩の藩校 18 近代学校教育 19 生活と信仰 20 地域の方言 21 主題学習			
	9月						
	10月						
	11月	2 愛媛の産業と人々	1 愛媛の産業 2 愛媛の人々の生活	22 愛媛の現状と課題			
	12月						
	1月						
	2月						
	3月						
	学習方法	<p>【予習】 配布された資料があるときはよく読み、重要語句や分からないごきは調べておきましょう。 【授業】 集中して作業学習に取り組み、説明をよく聞き、学習内容をよく理解しましょう。 【復習】 学習した内容をノートを見直して理解し、重要語句は数回ノートに書き、理解を確実にしましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能		知識・理解
	<p>・愛媛県の歴史的地理的な諸事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究する。 ・予習、復習をきちんと行う。 ・作業学習をていねいに行う。</p>		<p>・愛媛県の歴史的地理的事象から課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。 ・追求し考察した過程や結果を適切に表現する。</p>		<p>・地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用する。</p>		<p>・愛媛県の歴史的地理的事象や諸課題についての、基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付ける。</p>
	<p>評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		<p>第1・2学期 A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等</p>		<p>第3学期 A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、冬季休業中の課題等</p>		<p>年度末 1・2・3学期の平均</p>
備考							

日本文化史

総合学科

教科	地理歴史	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	R①群
使用教科書	詳説日本史(山川出版社)			副教材等	最新日本史図表(第一学習社)	履修	必履修・ 選択
授業の概要				学習の到達目標		履修の条件・進路	
日本史Bで学んだことを発展させて、さらに詳しく日本の文化の特色やその文化が形成された歴史的背景を中心に学習します。また、問題演習を解きながら、大学入試に対応できる学力の養成を目指します。				<ul style="list-style-type: none"> 各時代の文化とそれを生み出した背景、さらに文化の変容について、総合的に考察するとともに、その知識を身に付ける。 日本の文化の特色についての認識を深めながら、歴史的思考力を培う。 絵画・写真などの諸資料を活用しながら、歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、その結果を適切に表現する。 		<ul style="list-style-type: none"> 2年次で日本史B①を履修しておく必要があります。 4年制文系大学進学(国公立、私立)希望者を対象とします。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	1 日本文化の特色	(1) 原始・古代の文化	ア	旧石器文化・縄文文化		
	5月		(2) 中世の文化	イ	弥生文化・古墳文化		
	6月		(3) 近世の文化	ウ	飛鳥文化・白鳳文化		
	7月		(4) 近代・現代の文化	エ	天平文化		
	9月	2 日本文化の変遷	(1) 宗教史	オ	弘仁・貞観文化、国風文化		
	10月		(2) 学問・思想史	ア	院政期の文化・鎌倉文化		
	11月		(3) 美術史	イ	室町文化		
	12月		(4) その他の文化史	ア	桃山文化・寛永期の文化		
	1月			イ	元禄・化政文化		
	2月			ア	明治の文化		
	3月			イ	大正から昭和初期の文化、戦後の文化		
				ア	仏教史Ⅰ(飛鳥から平安時代)		
			イ	仏教史Ⅱ(鎌倉から掲示時代)			
			ウ	神道史			
			エ	キリスト教			
			ア	古代から中世			
			イ	近世から現代			
			ア	建築			
			イ	彫刻			
			ウ	絵画・書道			
			エ	工芸			
			ア	教育			
			イ	芸能			
			ウ	文学・史学			
学習方法	<p>【予習】 資料プリントをよく読んで、わからない箇所をチェックしましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない箇所は、早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について整理し、特に重要語句については『一問一答日本史B用語問題集』を活用して、確実な知識を身に付けましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知 識・理 解			
	<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化の展開に対する関心と課題意識をもって、授業に積極的に参加する。 予習・復習をきちんと行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化の特色と、交流による変容について多面的・多角的に考察する。 追究し考察した過程や結果を適切に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化の特色をその時代の政治、経済、社会等の時代的背景や外国との交流と関連させながら理解し、基本的事項の知識を身に付ける。 			
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に <u>考査</u> による <u>観点別評価</u> B：主に <u>授業等の活動</u> による <u>観点別評価</u>	第1・2学期	第3学期	年度末			
	A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)小テスト、課題の取り組み状況、長期休業中の課題等	A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)小テスト、課題の取り組み状況、冬季休業中の課題等	1・2・3学期の平均				
備考							